

国語 三十一	第三学年及び第四学年の内容 故事成語	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

次の文の _____ の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、() の中に書きましょう。

① 背水の陣で試合にのぞむ。 (ア)

② この賞は、作家になるための登竜門だ。 (ウ)

③ 彼はつねに和して同ぜずだった。 (イ)

ア 失敗すれば、次はないことをかくごして、全力をつくして、仕事などにあたること。

イ 人と協力して、調和を保って行動するが、相手の機嫌をとるために、したがうようなことはしないこと。

ウ 出世をするための関門のこと。

国語 三十二	第三学年及び第四学年の内容 故事成語	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

取り組んだ日 月 日

次の文の _____ の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、() の中に書きましょう。

① 読書感想文を推敲する。 (イ)

② パソコンについているこの機能は蛇足だ。 (ウ)

③ テストが終わったのにあれこれ悩んでもしかたない。杞憂だよ。 (ア)

ア とりこし苦労、つまらない悩みのこと。

イ 文や詩を作るのに文字や語句などを練り直すこと。

ウ 余計な行為、余計なもののこと。

国語 三十三	第三学年及び第四学年の内容 故事成語	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

取り組んだ日
月 日

次の文の _____ の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、() の中に書きましょう。

① 温故知新おんこちしんというから、日本の歴史れきしについて調べてみよう。
(**ア**)

② 漁夫の利ぎよふで両方りょうほうとも手にすることができて幸運こううんだった。
(**ウ**)

③ どちらの失敗しつぱいも五十歩百歩ごじゅうぼひゃくぼである。
(**イ**)

ア 昔むかしのことをよく研究けんきゅうし、それを参考さんこうに、今つきあたっている問題もんだいや新しいことがらについて考えること。

イ ちがいはあっても、似たりに寄ったりよりで、たいして変かわりがないこと。

ウ 争あそっている間に関係かんけいのない者が利益りえきを得えてしまうこと。

国語 三十四	第三学年及び第四学年の内容 故事成語	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

とく
取り組んだ日
月
日

次の文の _____ の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、() の中に書きましよう。

① この文章しょうの内容ないようは、矛盾むじゆんだらけだ。 (ウ)

② 昨日きのう、空前絶後くうぜんぜつごの大事事件だいじけんがおきた。 (イ)

③ あの一言いちげんが、父の逆鱗げきりんに触ふれたようだ。 (ア)

ア 目上めじやうの人をひどく怒おこらせること。

イ ひじょうにめずらしいこと。

ウ つじつまが合わないこと。

国語 三一五	第三学年及び第四学年の内容 故事成語	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

次の文の _____ の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、() の中に書きましよう。

① 男はだまされ続け^{つづ}てきたので、すっかり疑心暗鬼^{ぎしんあんき}になっていた。 (**ア**)

② だれもあてにならなくて、まさに四面楚歌^{しめんそか}だ。 (**ウ**)

③ 日本代表は、破竹^{はちく}の勢い^{いきお}で勝ち進^かんだ。 (**イ**)

ア 疑^{うたが}いの心をもつて見ると、あやしくないものまであやしくみえること。

イ 勢^{はげ}いが激しくて止められないこと。

ウ 周^{まわ}りを敵^{てき}に囲^{かこ}まれて、孤立^{こりつ}していること。

国語 三十一六	第三学年及び第四学年の内容 故事成語	名前	年	組	番
------------	-----------------------	----	---	---	---

取り組んだ日
月 日

次の文の _____ の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、() の中に書きましよう。

① ここまでねばったが、もう万事休すだ。 (ウ)

② うわさには聞いていたが、まさに百聞は一見にしかずである。 (イ)

③ まちがった薬選びは、病気の悪化を助長する恐れがある。(ア)

ア 手助けして伸ばすこと。

イ 人から聞くよりも、実際に自分の目で確かめるとよくわかること。

ウ 手の施しようがない。すべてが休止してしまうこと。

国語 三十七	第三学年及び第四学年の内容 故事成語	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

取り組んだ日 月 日

次の文の _____ の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、() の中に書きましよう。

① あのガキ大将だいしようにくつついて威張いばっているA君くんは、とらの威いを借かるきつねだ。 (ア)

② 彼の占かれいの、百発百中ひゃつぱつひゃくちゆうだ。 (ウ)

③ 私わたしは、となりのクラスのBさんと竹馬ちくばの友だ。
(イ)

ア 本人はたいしたことはないのに、ほかの人の権力けんりよくを頼たよりにして、威張いばる者のこと。

イ いっしょに竹馬ちくばに乗のって遊あそんだ友達だち。おさななじみ。

ウ 発射はっしやした弾たまや矢や、くじや占うらないがすべてあたること。

国語 三十八	第三学年及び第四学年の内容 故事成語	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

取り組んだ日 月 日

次の文の _____ の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、() の中に書きましょう。

① ガラスを割ったことをくやんでも、覆水盆に返らずだ。
(**イ**)

② となり町の野球チームは、チームプレイができていない。
烏合の衆だ。(**ア**)

③ あの漁の名人は、魚の群れを一網打尽にしてしまった。
(**ウ**)

ア 統一も規律もなく集まった集団のこと。

イ 一度したことは取り返しがつかないし、元通りにすること
はできないこと。

ウ あるグループを一度で全部つかまえること。

国語 三十九	第三学年及び第四学年の内容 故事成語	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

取り組んだ日
月 日

次の文の _____ の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、() の中に書きましょう。

① 蛩雪の功あつて今日の偉大な業績がある。 (ア)

② 一刻千金なのだから、一日をむだに過ごしてはいけない。(イ)

③ 彼女は、一を聞いて十を知るとても優秀な人である。(ウ)

ア 苦勞して学問に励むこと。

イ わずかな時間が千金に値するほど貴重であること。

ウ とても理解が早いこと。わずかなことから全部が理解できること。

国語 三十一	第三学年及び第四学年の内容 故事成語	名前	年	組	番
-----------	-----------------------	----	---	---	---

取り組んだ日
月 日

次の文の _____ の故事成語の意味としてふさわしいものをあとのアからウの中から選び、() の中に書きましよう。

① かれの話を半信半疑はんしんはんぎで聞く。 () ウ ()

② 歳月さいげつは人を待たずまというから、今すぐやるべきである。
() イ ()

③ よく考えて返事をしないと、朝三暮四ちようさんぼしでだまされてしまうよ。
() ア ()

ア ごまかすこと。うまくまるめ込むここと。

イ わずかな時間も惜おしんで努力どりよくしないと、後で悔くやんでも間に合わないこと。

ウ なかば信じ、なかばうたがうこと。